Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2024-11-28

木村酒造文書の整理・調査（第2章自治体・地域住民と連携した新たな自治体史編纂や地域歴史博物館形成事業）

石川，道子

(Citation)
歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業,5(平成18年度事業報告書):84-84

(Issue Date)
2007-03-31

(Resource Type)
report part

(Version)
Version of Record

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/81002263

木村酒造文書の整理・調査

平成18年10月、神戸市東灘区御影石町の木村酒造株式会社から、震災時に屋根裏にあげた文書があり、その取り計らいをどのようにすればよいのかというお話しがあったそうである。たまたまお家の方が神戸新聞社に勤められていたため、同じ新聞社の大国氏のもとに話しが入り、とりあえずお家にうかがった。史料は柳行李や木箱、段ボールなどに入っており、10個ほどの量である。隙間なく詰め込まれ、ほぼ一紙文書なので見た目より点数が多そうである。

まず目録の作成であるが、御影まで来ていては何時できるかわからないので大学で借用することにし、借用期間はとりあえず１年、あとは更新ということとなった。しかし、作業をするのに大学まで来て、というのも遠い、ということで、伊丹酒造組合にお願いし、ここに置かせていただけることになり、12月に運び込んだ。ここなら時間があり次第史料をみることができる。

伊丹の江戸積み酒造家西新右衛門氏文書を調査させていただき、今回は灘の史料ということで、どこが同じでどこが違うか、興味深い。

文書を所蔵される木村酒造は、ＮＨＫの朝の連続ドラマ「あまからしゃん」のモデルになった酒屋だそうである。建物は木造の趣のある社屋。創立は宝暦年間と伝わるそうである。まだ一部の史料をみているだけだが、今のところ天明期の史料がもっとも早いもので、寛政・享和期のものが少数、文化・文政期があり、天保期以降の史料が多くなる。

史料は一応箱別にみていったが、入っている状態は、ただ何かの際にとりあえず押し込んだようであり、箱毎に別々に目録を取るより、同種類の史料を集めたほうが分かりやすいと判断して、近世史料から目録を取る作業に入った。

これまでに近世の家業関係の史料を中心に2000点余をみて、大略次のように分類できようか。

米の購入
江戸酒問屋との往復書簡
酒の売付書・仕切目録
為替手形の受払い
大坂の両替商との往復書簡
酒造勘定帳
石屋村・木村家の酒株関係書類
尼崎藩札

等々である。酒造業・販売などの酒造関係文書と余剰金の運用史料が多い。これから家関係の史料も出てくると思われる。

史料に出てくる木村家の大かたの所在は石屋村であるが、古い史料に御影からの出造りとあり、もとは御影村に所属している。御影村の大手酒造家である嘉納家との関係が深く、嘉納家から酒株を譲られて独立し、のちに石屋村に転居したのではないかと思われるが、このあたりのところはまだはっきり分からない。

石屋村に所持する酒蔵は内蔵・西蔵・東蔵・新場蔵・川西蔵など数蔵を所持し、できた酒は江戸の鴻池徳兵衛はじめ小西利右衛門・同利作・浅井藤右衛門・鹿嶋清兵衛など多くの酒問屋へ積み下し、また廻船を所有している。

同家の酒印については、「松泉」「松緑」「しら梅」「しら桃」などを用い、「酒尾松」「猿若街」「花筏」「男山」「剣菱」「正宗」などの酒も、江戸の問屋の注文にあわせて江戸積みしている。

伊丹の小西新右衛門氏文書では、酒造での余剰金は領主近衛家が行っている貸付け金の資本に融資し、あるいは大名貸にまわし、それによって利息を得ているが、主に天保期以降の木村家の史料では、余剰金は大坂の両替商に預け、数百両から数千両の金銀の売買によって利益を得ていたことを示する両替商との往復書簡が多く、江戸積み酒造家の余剰金の運用は大名貸他の貸付け資金に限らないと改めて思った。

（文責・石川道子）